

愛知県総合防災訓練に当院が参加。

災害発生時に備えた連携を強化しました。

東海・東南海地震に備えた愛知県の総合防災訓練が9月2日、南知多町の豊浜漁港を主会場に行われました。当院からも8人の医師、看護師らが参加し、緊迫した雰囲気の中で災害救護訓練にあたりました。

当院は赤十字の使命に基づき人命救助に努めます。

日本赤十字社では、災害救護活動を赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動のひとつとしてとらえています。その使命に基づき当院ではこれまで、国内における地震や台風などの自然災害や航空機墜落事故等の際に、被災者

救護のため数多くの救護活動を行ってきました。

古くは愛知県下に大きな被害を与えた昭和28年の台風13号や昭和34年の伊勢湾台風による災害から平成7年の阪神淡路大震災、平成12年の東海豪雨災害、最近では平成16年の新潟県中越地震など、そのたびに救護班を現地へ派遣して活動してきました。

また、当院は、愛知県の災害拠点病院に指定されており、万が一の災害にあたって機敏な活動ができるよう、院内に常備救護班を編成し救護訓練を行っています。救護班の平成17年度の活動は、行政主催の合同訓練に5回参加したに加え、院内災害訓練を1回行いました。

今回の訓練は、より多くの機関と地域住民が参加して行うことによって、互いの協力体制の確立、防災力の強化、さらには防災意識の高揚を図ることを目的として行われました。

そのため会場に集まった機関は愛知県、南知多町の行政のほか、防災、



す。トリアージとはフランス語で「選別」という意味で、大規模災害時、傷病者を軽症、重症と速やかに選別でき、重症者からの治療が可能となり、ひいては死者の減少に結びつきます。

訓練では地元の医療機関がトリアージを担当して、傷病者を「軽症」「中等症」「重症」に分け、その後、それぞれのエリアに運び込まれました。当院が担当した重症患者エリアへは、片足をなくした人、気を失った妊婦さんといった地元ボランティアの人たちが扮する重症者が次々と運び込まれました。当院からの8人は、まず出血を止めて傷口の手当てを行う応急手当を手はじめに、呼吸が停止、あるいは心停止といった傷病者に対しては人工呼吸、心臓マッサージ等を施した上で、さらに出血多量の傷病者には輸血で対応しました。傷病者のそばでは家族が安否を気遣って泣き叫ぶ光景も見られます。治療の一方、家族らには手際よく病状を説明し、冷静さを取り戻させていました。医療救護ステーション内での救急医療を済ませた傷病者のうち、重症者を一人ずつ担架で救急車まで運び込み、搬送を依頼したところでこの日の訓練を終えました。

医療救護ステーションでは、まず傷病者のトリアージが行われま

トリアージによる連携が治療効率を上げます。

当院では今回の訓練を通じ、それを強く認識するとともに、今後の救援活動に生かしていきたいと考えています。



もしも警戒宣言が出されたら？

名古屋市は東海地震が発生した場合、著しい被害を受けるおそれのある地域として、国から地震防災対策強化地域に指定されています。その東海地震が発生すると認められた場合には、東海地震予知情報や警戒宣言が発表されます。そうした場合の私たちの行動ポイントとして名古屋消防局では「ラジオ等で正しい情報をつかむこと」「家庭内における各人の役割を確認すること」さらに「あらかじめ地域の避難所を確認しておき、揺れがおさまったら速やかに避難すること」などを挙げています。ほかにも東海地震や防災対策などについて愛知県や名古屋市をはじめとするホームページを調べたり、お近くの消防署に問い合わせるなど、防災についての情報収集と対策を立てることが、いざという時に役立つはずです。

Check!

薬剤部から

薬の適正使用を通し、
より良い
医療のために
尽くします



薬の専門家として 幅広い業務を行っています

一般の方にとって、薬剤師は「薬を準備し、詳しい説明をしてくれる人」というイメージがあるかもしれませんが、しかし当院のなかで、薬剤師はもっと幅広い仕事をしています。今日はそんな薬剤師（薬剤部）の仕事について紹介したいと思います。

薬剤師の仕事は、医師が書いた処方せんを受け取ることからはじまります。薬剤師は受け取った処方せんの内容をしっかりとチェックし、処方におかしな点がないか、薬の成分が二重になっていないか、他の薬との飲み合わせに問題

はないかなどを確認します。これは薬の専門家として、万が一の事故を防止するため。疑問点があれば必ず処方した医師に確認します。

そして処方せんに基づいて薬をそろえ、調整し（これを調剤といいます）、万全のチェックを行ったあと、患者さまに新しく処方された薬や変更された薬について説明しながらお渡しします。

ほかにも医師などのメンバーとともに薬事委員会を開き、当院で使用する薬の選定を行ったり、新しい薬の開発に欠かせない治験（ちけん）に積極的に協力したり、常に最新の医薬品情報を収集し、医師や看護師、また患者さまに情報提供したりといった多彩な活動に取り組んでいます。

また赤十字病院の薬剤部ならではの業務として、災害時に必要となる薬を備蓄したり、国際医療救援のため世界中に出かける職員の予防接種の準備をしたりといった仕事も行っています。

救命救急医療を支えるのも 薬剤部の仕事です

救命救急センターを持ち、地域の救急医療を担っているのが、当院の特色



のひとつです。薬剤部はこうした救急医療を支える役割も担っています。

たとえば24時間救急医療に対応するために救急薬局を設置し、24時間体制で調剤業務と輸血血液管理業務に対応しています。

1日で100名ほどを数える入退院患者さまに対応するのも、私たちの大切な仕事です。入院時には、患者さまがふだんから飲んでいる薬を漏れなくチェックし、医師に情報提供して、治療に役立てます。また退院する患者さまに対しては、退院後、自宅で飲む薬の内容や飲み方について、きめ細かな退院指導を行っています。

ベッドサイドケアに 力を注いでいます

現在、薬剤部が特に力を注いでいるのは、入院患者さまに対するベッドサイドケアの充実です。病棟で薬剤師は、患者さまに対する服薬指導などを行います。さらに一歩踏み込み、チーム医療の一員として、医療に積極的に関わっていくようにしています。

たとえば薬を飲んだ患者さまの状態をきめ細かくチェックし、薬物アレルギーや薬物相互作用などの発見に努めるのもそのひとつ。もし、こうした問題が見つかったら、より良い薬を処方できるよう医師に助言を行います。また、患者さまの過去の薬歴を詳しく調べることで、診断・治療に有効な情報が得られることもあります。実際には、こうした活動に積極的に取り組むことで、処方される薬の種類を減らしながら同等の治療効果を実現したり、副作用を減らすといった効果があらわれています。薬剤師が専門分野でより積極的に医療に関わっていくことにより、患者さまにとってもより良い医療を実現したいと願っています。

地域と広く、深く 連携しながら

平成17年9月に当院は、地域医療の中心となる地域医療支援病院として承認されました。

薬剤部では以前から、「八事整形外科連携会」や「DM（糖尿病）チーム医療研究会」「褥瘡（じよくそう）床ずれ」治療薬の適正使用に関する研究会」など、地域の医療従事者と連携したさまざまな活動に参加してきましたが、今後はこうした連携をさらに拡大していきたいと考えています。たとえば調剤薬局と連携して情報交換を行ったり、勉強会を開いたりといった活動も必要となるでしょう。また、外部の病院や薬局などの新人薬剤師を受け入れ、当院で研修を行う計画も進めています。

こうして地域と広く、深く連携しながら、医薬品の適正な使用を実現し、安心してかかれる高度医療を実現していくこと。それが、私たち薬剤部の役割だと考えています。

Column

安心して
薬を使っていたくために

薬の副作用

医薬品の世界では、「副作用のない薬はない」ということが常識になっています。薬は人間の身体にとって異物なので、必ず大なり小なりの副作用があるものなのです。

そのなかで当院では、副作用をできるだけ少なくするために、慎重に検査を行い、他の薬との相互作用も検討した上で、薬を処方しています。しかし、いくら慎重に処方しても、副作用を完全になくすることはできません。そこで一部の薬に関しては、薬の説明書のほかに、副作用の初期症状に関する説明書をお渡ししています。この説明書には「こんな初期症状がでる場合があります」と具体的に書いていますから、該当する場合はすぐに医師の診断を受けるようにしてください。



ジェネリック医薬品について

最近、ジェネリック医薬品（後発医薬品）が話題になっています。ジェネリック医薬品とは、特許の切れた医薬品と同じ成分となるようつくられた医薬品で、安価なのが特色です。その一方で、成分は同じであっても体内での薬の作用の仕方に違いがあり、その影響に関する情報不足しているなど、いくつかの未確認な点を含んでいます。

そこで当院では、ジェネリック医薬品に関しては慎重な検討を行い、患者さまにメリットのあるものだけを選択して使用しています。

現在、当院では約1800品目の薬を使っていますが、そのなかで約80品目ほどがジェネリック医薬品です。ジェネリック医薬品の処方希望される方は、主治医または薬剤師までおたずねください。



薬剤部長 小林 一信

お知らせ

フィリピン保健医療支援事業 派遣スタッフの帰国のご報告

平成18年2月16日～8月15日の約6カ月間、フィリピンのキノ州で保健医療支援事業に取り組んだ小林美紀助産師が8月17日に帰国し、記者会見を開きました。会見では、基礎保健の向上のため、手洗いなどの衛生教育を行ったことや、ボランティアのヘルスケアワーカー育成に取り組んだり、予防接種を行ったといった現地での活動が報告されました。日本赤十字社のこの支援事業は平成19年9月までの3カ年事業として、現在も継続されています。



医療社会事業課が日本病院学会で 優秀賞受賞



当課メンバー6名を代表し、坂本理事が日本病院学会会長から表彰状を受け取った。

医療社会事業課では、MSW（医療ソーシャルワーカー）が患者さまやそのご家族の相談に応じています。1998年から地域の医療機関や介護施設、訪問看護ステーションなどとの連携を進めてきました。当院を退院する患者さまがよりスムーズに、他の病院へ転院したり、自宅での療養に移っていただけるように支援することが大きな目的です。今回、退院後の患者さまやご家族を対象とした調査を行い、「MSWによる患者本位かつ効率的な退院援助」という論文にまとめて、昨年度の日日本病院学会で発表を行いました。その結果、全国で5つ選ばれる「優秀演題」の首席に選ばれ、今年度岡山で開催された同学会で表彰を受けました。権威あるこの学会での受賞はたいへん名誉なことです。医療社会事業課では、この受賞を励みに、さらにすぐれた退院支援の実現をめざして努力を続ける考えです。

納涼夏祭りを開催しました

8月23日、病院主催の納涼夏祭りが正面玄関前駐車場で行われました。これは地域との交流を目的としたイベントで、夏の恒例行事となっています。職員の手による屋台では、トウモロコシや串カツ、カキ氷などを求める長い列ができていました。地域の方々や子どもたちには、夏休み終盤のよい思い出をつくっていただけたことと思います。



ホームページのアドレスは、
<http://www.nagoya2.jrc.or.jp/>です。

病院ホームページにこの広報誌「八事日赤ニュース」も掲載しております。

編集後記

「八事日赤ニュース」33号をお届けします。今回は、「愛知県総合防災訓練への参加」を中心にお知らせいたしました。本誌へのご意見、ご要望がありましたらどうぞ下記のところへお寄せください。お待ちしております。

名古屋第二赤十字病院 企画課 TEL 052-832-1121 内線51141
〒466-8650 名古屋市昭和区妙見町2番地の9
メールアドレス kikaku@nagoya2.jrc.or.jp

医療を支える献血に 当院も協力しています



暑い中、多くの方にご協力いただきました
7月14日、当院は愛知県赤十字血液センターの呼びかけに応え、正面駐車場やまのて広場で、職員や一般の方を対象に献血を行いました。当日は2台の献血バス（献血用1台、休憩用1台）が当院を訪れ、午前10時から献血がスタートしました。
献血を行う際には、まず所定の問診票に記入し、医師の問診を受けます。これは献血する方の健康に配慮し、また血液を必要としている患者さまをウイルス感染などから守るために必要なものです。そして問診後、10分ほど

愛知県赤十字血液センター

ホームページアドレス <http://aichi.bc.jrc.or.jp/>



愛知県赤十字血液センターのホームページには、献血を受け付けている献血ルームなどの紹介のほか、問診や献血できる基準などについても紹介されています。「せっかく来たのに献血することができなかつた」といったことが少しでも防げますので、事前にご覧いただくことをおすすめします。

今後も協力を続けていきます
愛知県赤十字血液センターによれば、ここ数年は献血者が減少傾向にあり、慢性的に血液が不足しているとのことです。救急医療や手術で多くの血液を必要としている当院としても、できる限り献血事業に協力するとともに、多くの方に献血いただけるよう呼びかけていきたいと考えています。

小児科で 七夕会を 行いました

小児科では7月5日に七夕会を開催しました。数週間前から、短冊に願い事を書いたり、飾りつけをしたりと、時間をかけて準備を進めてきた会場は、とても華やか。そのなかで、「たなばたの歌」などをみんなで元気よく歌いました。そして、長期間の入院のために学校に通えない子どもたちの院内クラス「ひばり学級」の出し物がはじまると、親御さんや職員がビデオ撮影しながら盛んに拍手を送っていました。出し物は人形劇「魔法使いクルド」と「Believe」という歌の演奏でした。子どもたちは日頃の練習の成果を発揮し、とても晴れやかな表情で演じ、歌ってくれたのが印象的でした。小児科では今後も季節感あるイベントを開催していきたいと考えています。



外来診療表

お問い合わせは
TEL 052-832-1121

平成18年10月1日現在

	診療科目	室	月 火 水 木 金				
			月	火	水	木	金
第1病棟2階	産婦人科	午前	7 小林 8 加藤 12 今井	倉内 山室 茶谷	加藤 茶谷 林	倉内 山室 上野	小林 加藤 林
		午後	8 倉内	小林・茶谷 加藤・林			山室
	泌尿器科	午前	1 山田 2 塩田 3 新美	小林 山田 新美	小林 石田 小川	石田 小川 横井	山田・石田(隔週) 塩田 横井
		午後	2 法水 3 星野 5 坂本	小松 青葉 長谷川	法水 芳野 坂本 交替制	夏目 土屋 小松	田畑 松本 長谷川
	外科	午後			乳腺		
		午前	1 三尾 3 鈴木 6 久野	久野 鈴木	三尾 久野	三尾 鈴木	三尾 鈴木 久野
		午後	1 久野		三尾		鈴木
	整形外科	午前	1 竹上 2 馬淵 3 北村 5 中島	高松 佐藤 稲生 梶田	濱田 安藤 北村 竹上	梶田 安藤 馬淵 高松	中島 佐藤 稲生 濱田
		午後			交替制(第1・3週)		
	リハビリテーション科	午前		交替制	交替制	交替制	交替制
第1病棟3階	形成外科	午前	3 並木		並木		並木
		午後					
	移植・内分泌外科	午前	打田 片山	富永 佐藤	富永(第1・3・4週) 交替制(第2週)	打田 後藤(芳) 松岡(第1・3・5週)	後藤(憲)
		午後				後藤(憲)	
	脳神経外科	午前	6 高須 7 交替制	鈴木 栗本	波多野(第2・4週) 相見	鈴木 小島	波多野
		午後					
	神経内科	午前	1 藤岡 2 辻本 3 安井	橋詰 須賀 長谷川	辻本 富田 長谷川	須賀 富田 安井	藤岡 橋詰 交替制
		午後					
	循環器内科	午前	7 山下 8 橋本 10 七里	吉田 青山 ベス・メー・カー・外務 泉	平山 松本 三輪田	小椋 立松 村松	平山 鈴木 山本
		午後	10 ICD外来				
	心臓血管外科	午前	12 井尾	田嶋	酒井	井尾	臼井
		午後	12		高味		
	呼吸器内科	午前	3 鈴木 5 上村	若山 櫻井	鈴木 朴	小笠原 加藤	小笠原 若山・朴
		午後					
	呼吸器外科	午前	2	吉岡	向山	向山	吉岡
		午後					

	診療科目	室	月 火 水 木 金				
			月	火	水	木	金
第1病棟3階	耳鼻咽喉科	午前	1 久野 2 櫻井 3 櫻井	交替制	小山 櫻井 勝見	交替制	小山 久野 原田
		午後					
	歯科口腔外科	午前	林 渡邊 濱口 児玉	林 渡邊 濱口 児玉	林 渡邊 濱口 児玉	林 渡邊 濱口 児玉	林 渡邊 濱口 児玉
		午後					
	小児科	午前	1 今橋(心) 元野(心)	安藤(神)	安藤(達)	永井(琢)	今橋(心) (第1・3週)
		午後	2 石井 岩佐	岩佐	田中	安藤	横山
		午前	6 神田	野田(500)	石井	神田(7)	廣岡
		午後	7 山川(500) 伊藤(心)	後藤	後藤(500)	村松(500)	伊藤(500) 山川(心)
		午後	8 岸(500)				
		午前	1 今橋(心)	石井(心)	神田(7)	永井(幸)	今橋(心) (第1・3週)
		午後	2 永井(幸)			野村(心) (第1・3・5週)	
		午後	6 後藤(500) 永井(琢)		交替(乳) (第2・4週)	岩佐(500) 横山	田中(未) 岸
		午後	7 交替(乳) (第1・3週)		後藤(心) 永井(琢) (第1・3週)	村松 (第1・2・3週)	
		午後	8				
第3病棟	小児外科	午前	8 城田・瀬尾		城田		城田
		午後					
	血液	午前	3 小椋	笠井	内田	小椋	尾山
		午後					
	消化器	午前	10 白子 12 山川 13 荻野	蟹江 林(勝) 大脇	林(克) 尾関 西脇	根本 今井 荻野	栗本 林(勝) 交替制
		午後					
	内分泌	午前	7 稲垣 8 本美	垣屋 大川	加藤 本美	稲垣 浅井	深見 垣屋
		午後					
	腎臓	午前	16 両角 15 山岸	堀家 坂井	武田 小野田(心)	両角 前田	武田 交替制
		午後					
	一般	午前	2 交替制	交替制	交替制	交替制	交替制
		午後					
	眼科	午前	1 三宅 2 永田 清水	三宅 清水	三宅 清水	三宅 清水	三宅 永田 清水
		午後					
	放射線科	午前	杉江	三村	杉江		三村
		午後	三村	杉江	芝本(隔週)	三村	杉江
		午後			南部		
		午後					

※各診療日担当医師につきましては、学会等により代診、休診とさせていただきます場合がございますのでご了承ください。
※診療表は毎月変更がございますので、ご確認ください。最新の診療表及び休診情報は各科外来の掲示、またはホームページ【<http://www.nagoya2.jrc.or.jp/>】に掲載しております。

心 心理 神 神経 遺 遺伝相談 ア アレルギー 血 血液 腎 腎臓
接 予防接種1・3週 乳 乳児健診2・4週 内 内分泌1・3週 管 血管外科 精 精神
循 循環器 未 未熟児1・2・3週 健 小児股関節健診 再 再診のみ

外来のご案内



診療受付時間 初診:午前8時～午前11時まで
再診(予約外):午前8時～午前11時30分まで

診療開始時間 午前8時45分

休診日 土曜・日曜・祝日 年末年始(12月29日～1月3日)
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

※救急については、休診日や診療時間帯にかかわらず救命救急センター(第2病棟1階)にて診療しています。

初診(初めて受診される方)

「診察申込書」に必要事項をご記入の上、保険証を添えて新患受付へお出ください。なお、紹介状をお持ちの方は、一緒にお出ください。紹介状をお持ちでない方は、特定療養費が別途必要となります。

再診(2回目以降受診の方)

直接受診科の受付の再来受付機にて手続きをしてください。ただし、診察を受ける科が初めての場合は、受診科の受付で手続きをしてください。また前回救急外来に受診された方は、お申し出ください。
※予約診療の方、及び予約検査の方は予約票にしたがって受診してください。

予約診療の方

予約診療の方はお手数ですが、再来受付機にて来院確認の手続きをお願いいたします。来院確認の受付票が発行されますので、その後診察室へお越しください。

再診は、基本的に全診療科で予約制を取っております。
※予約のない再診は午前11時30分までに受付してください。